



# 地獄めぐりに新名所を

## 温泉・地球博物館

### 5年後メドに準備

昭和初期から半世紀以上もの長い間、観光別府の看板板として、その座を保ってきた「地獄めぐり」に、新名所「温泉・地球博物館」(仮称)の建設構想が持ち上がっている。すでに「発案」元の別府地獄組合(宇都宮秀綱組合長・八地獄加盟)では、博物館の建設資金の積み立てを始めており、5年後には約二億円を準備、これを元にした五億円の仕事費で博物館建設に取りかかる。博物館がオープンすれば、従来の「見る」だけでなく、「知る、学ぶ地獄めぐり」という新しい魅力が加わり、修学旅行はもちろん、若い観光客誘致にも力を発揮するのではないかと観光業界の期待は大きい。



別府地獄組合の構想では、博物館には地球の内部の構造や地熱や噴気、温泉の仕組みなど学術的なものから、海地獄、血の池地獄、童春地獄など八地獄のミニ模型をつくらせ、それぞれの地獄の特徴や秘密などを科学的にわかりやすく解説するコーナーなどをつくる。また実際に噴気や地熱を利用して発電し、この電気で別府市全体のミニ模型に自動車や電車を走らせ、街に灯をともし、いろいろな物を動かそうというプランもある。

地獄めぐりは、昭和三年に代表的な別府の観光名所になって以来、全国からの観光客を集めてきた。だが四十年前ころをピークにして、現状維持が続き、昨年は神戸のポートピアの影響もあって大きく落ち込んだ。今年は昨年の反動で、修学旅行客が帰ってきたこともあって、昨年比二〇%前後まで観光客は伸びている。

地獄めぐりにカツを 博物館建設構想が浮上した別府の地獄

だが一今後も修学旅行や若者層をひきつけるためには何か近代的な施設をつくり、地獄めぐりと合わせた新しい魅力を開発する必要があり、という機運が、地獄組合

の間に高まり、「温泉・地球博物館」構想が浮上。まず「資金の準備が先決」と、昨年から組合員の八地獄がそれぞれ毎月三千万円の積み立てを開始、現在までにすでに三千万円近い積み立てが出来

ているという。同組合では5年後をメドに資金をつくり、博物館構想の実現に乗り出すことにしており、宇都宮組合長は「最近、地獄めぐりに若い人の人気が集まっている。しかし長期的な人気を維持するためにはもっと近代的な施設をつくり、修学旅行の児童・生徒や若者にアピールすることが必要。若い時に感動した思い出は年配になって再び足を向けてくれるという期待感もあり、ぜひ別府観光誘致のために温泉博物館を鉄道の地獄地帯に建設したい。資金面も現在の積み立てにより5年後にはメドがつくと思つ」と、夢をはせている。